

春 祭 の お 知 ら せ

琴似神社祭典委員会

新緑の候 氏子崇敬者の皆様には、益々御清祥の事とお慶び申し上げます。

当神社祭典につきましては、毎年皆様より格別なご協賛を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、本年も琴似神社春季大祭の時期を迎えることとなりました。氏子崇敬者の皆様のお力添えのもと、春季大祭のご奉仕に精励して参るところでございます。

本年度の祭典は、東祭典区（八軒・新川地区）の担当によりご奉仕、斎行される事となりましたので、皆様には例年同様に賜りますよう宜しく御願ひ申し上げます。

なお、北海道神宮祭【札幌まつり】（6月15日）の琴似地区の募財も併せて御賛助頂いておりますので、何卒宜しく御願ひ致します。

平成17年 5 月吉日

琴似神社祭典委員長 佐 藤 紀 義

諸行事につきましては、来る 5 月 27 日午前10時より御本殿におきまして春季大祭が行われ、引続き、報徳神社において戦没者と琴似屯田の慰霊祭が行われます。又、境内におきまして、子供相撲（午後 3 時30 分より）・演芸（昼の部 午後 1 時30分より、夜の部 午後 6 時より）・奉納催物を予定しておりますので、多数の御参拝をお待ちいたしております。

平成16年度春季大祭並びに例大祭収支決算

平成17年度春季大祭収支予算

			収入の部			(単位：円)
項	目		平成16年度春季大祭決算	平成16年度例大祭決算	平成17年度春季大祭予算	
繰	越	金	—	692,057	—	
一	般	寄	3,074,600	3,372,900	3,050,000	
篤	志	附	318,000	349,000	220,000	
清	掃	附	208,000	257,500	180,000	
万	度	料	—	101,256	—	
稚	児	被	—	208,000	—	
雑	参	加	400	34,800	—	
	収	入				
合	計		3,601,000	5,015,513	3,450,000	
			支出の部			(単位：円)
項	目		平成16年度春季大祭決算	平成16年度例大祭決算	平成17年度春季大祭予算	
儀	式	費	549,914	602,497	600,000	
奉	納	費	450,000	550,000	450,000	
北	海	道	200,000	—	200,000	
報	徳	神	170,000	—	170,000	
渡	御	社	—	—	—	
万	度	山	—	1,223,758	—	
総	務	車	—	60,000	—	
接	待	保	118,141	107,224	150,000	
会	議	存	371,698	584,919	400,000	
清	興	費	59,600	77,625	70,000	
設	宮	費	289,925	469,820	330,000	
花	火	費	140,000	318,000	140,000	
需	用	費	55,440	83,160	55,000	
広	報	費	134,595	227,590	150,000	
雑	報	費	99,485	82,075	100,000	
振	興	費	270,145	135,151	220,000	
予	備	費	—	202,366	180,000	
祭	典	積	0	0	235,000	
	立	金	—	291,328	—	
合	計		2,908,943	5,015,513	3,450,000	
差	引	残	692,057	0		

春祭りを迎えて

琴 似 神 社 社 報

北 の み や け

札幌市西区琴似1条7丁目

琴 似 神 社 社 務 所

「今年の祭典について」

琴似神社は明治八年北海道開拓使最初の屯田兵が琴似に入植された二百四十戸の有志の日々の心の拠り所として御鎮座されました。爾来、氏子崇敬者各位の平安をお祈りいたして居ります。連綿とした人々の篤い崇敬の歴史を重ねます中に本年御鎮座壹百参拾年の佳年を迎えますことは、まことに御同慶の至りでございます。この佳年を氏子崇敬者の皆様とともに寿ぎ、永い歴史の中で変わることなく人々を導き、御加護下さっている琴似神社の大神様の赫たる御神徳に遍く祈念するため今年度の春季大祭は恒例の五月二十七日斎行されます。又、九月四日の例祭を中心として壹百参拾年祭の奉祝祭と記念すべき奉祝の式典を斎行させていただきます。今後の御神威の発揚はもとより、

神道百言

玉櫛たまきかけて祈いのらな世よ々の祖おや

祖おやの御祖みおやの神かみの幸ちひを

— 平田篤胤・玉櫛 —

親の恩を思うものは、祖先の恩を思う。祖先の恩を思うのは、祖先を生んでくれた大御祖（天照大御神）の神のお恵みに思いをいた

この地域の悠久の歴史及び信仰をふまえ御社頭の隆昌に邁進する所存でございますので、氏子崇敬者各位の御奉賛を賜りますようお願いし御願ひ申し上げます。

琴似神社宮司 菅 原 正 文

「春祭りにあたり」

今年例年になく降雪によって、ようやく遅い春が廻って参りました今日この頃です。春祭りの諸行事を氏子の皆様と共に御奉仕し、御祭神の御神徳と先人たちのご苦勞に感謝の誠を捧げ、更なる御加護を賜りますよう、努力して行かなければならないと存ずる次第です。氏子の皆様には、本年も一層の御崇敬と、変わらぬご協賛を賜りますように宜しくお願い申し上げます。祭典当日は、皆様の御参拝をお待ち致しております。

祭典総務部長 柳 谷 勝 城

さねばならぬ。

玉櫛かけて祈るとは、私は清浄なものであるということを表示したもので、歴代の祖先から、その大元の御祖先の神に対しても、真剣に祈るならば、それらの神々は、必ず子孫の自分達に幸福を与えて下さるであろうとの意である。

『年間の御祭事』

一月	一日 祭旦祭
	三日 元始祭
	七日 どんと祭
(一年間おまつりした御札や御守を、焼納するお祭りです。)	
二月	三日 節分祭
	十一日 紀元祭
春分	の 日 祖霊祭
四月	十七日 祈年祭
五月	二十七日 春季大祭
(屯田兵の人々の入植完了の日を記念する御縁深い日です。)	
六月	十八日 功労者慰霊祭
	三十日 夏越の大祓
九月	三日 安全神社例祭
	四日 宵宮祭
	四日 例大祭
(明治天皇の北海道御巡幸と琴似屯田御巡視を記念して定められました。)	
秋 分	の 日 祖霊祭
	二十七日 報徳神社秋祭
	天満宮祭
十月	二十八日 大神宮祭
十一月	二十三日 新嘗祭
十二月	二十三日 天長祭
	三十一日 年越の大祓
	除夜祭

「新任にあたって」

今春から当琴似神社でご奉仕させていただくことになりました、藪下です。

出身は札幌市に隣接する江別市で、高校卒業までは野幌という所に住んでいました。日本の歴史や宗教・精神文化といった分野に興味があり、東京の國學院大學で四年間神道について勉強しました。

実家はずっと神社に関わりのある家ではなく、神職として神社に奉職することを目指していたわけではありませんでした。神道について机上の勉強だけでは学べないことを補うため、関東のいくつかの神社で助勤させていただいたのをきっかけに神社への奉職を意識するようになりました。

神主の家の出身でない女子が神職として神社でご奉仕する機会は多くありません。身に余る幸運に恵まれ、生まれ育った北海道の神社でご奉仕できることを心から嬉しく思っています。至らない点多々あるかと思いますが、お宮の伝統に恥じることのないよう、誠心誠意勤めさせていただきますので、ご指導、ご鞭撻の程宜しく御願ひ申し上げます。

藪 下 瑞 香